



### 森 宗作 (もりそうさく)

森宗作は、文久3年(1863)に下野国・足利郡足利町(現栃木県足利市)で生まれました。明治16年(1883)、20歳のとき桐生新町一丁目の森宗五郎方に入り婿しました。商人の家柄なので宗五郎の父の名を継ぎ宗作と改め、織物金融などの事業に専念しました。

明治31年(1898)、館林町にあった四十銀行の本店を桐生町に移すことを主張した宗作は、選ばれて常務取締役となりました。同銀行は大正5年(1915)、本店を本町五丁目に移し、レンガ造りの近代的な建物を建築しました。

また、明治37年(1904)には、森商店から森合資会社に改名しました。

明治22年(1889)、町制が施行されてから宗作は町会議員に十回当選し、市制が敷かれてからは顧問に推薦されました。常に町の公共事業につくし、桐生の織物業のため、町民の金融、学校設立などのために尽力しました。

森 宗作  
(1863~1932)



昔の水路の跡。  
今は歩道になっている。

そう！よく見てたわね。昔ここに水路がひかれていたのだけれど、あの石は、水路の上に置かれて橋の役目をしていたそうよ。水路が埋められてしまったので、敷石に使っているのね。



石を壁の一部に利用している例もある。



門の奥に細長い石が置いてあるでしょう。



たしか、曾我家住宅の庭にも同じような長い石があったよ。



曾我家住宅の庭にあった石